

－ここがポイント－ 似た草の見分けかた (3)

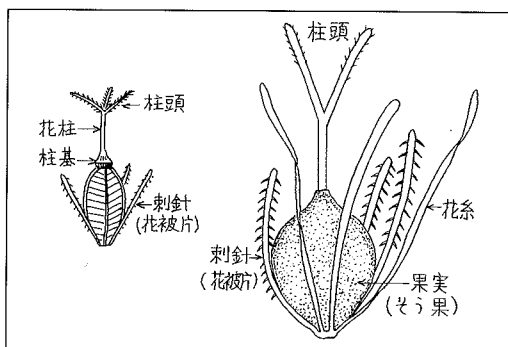
原図 桑原義晴

全国農村教育協会 廣田伸七

前号(植調42巻1号・通巻480号)で「似た草の見分けかた(2)」として、水田雑草のうちイネ科9種、ミゾハコベ科1種、アワゴケ科1種、ゴマノハグサ科5種、ミズアオイ科6種の計22種について掲載した。引続いて今号では「－ここがポイント－似た草の見分けかた(3)」として水田雑草のシソ科3種、ホシクサ科3種、イグサ科3種、カヤツリグサ科19種の計28種について、前回同様、カラー写真を口絵として1～4頁に掲載し、図判と見分け方のポイントは42頁～47頁に掲載した。カラー写真によって全体の姿・形及び色を認識し、細部、特に見分け方のポイントの各部の詳細は図によって確認するといった方法で見ていただくと一層理解を深めることができる。

また、カヤツリグサ科はいずれも似た形をしていて、見分けるのは難しいが、花や果実が見分けるポイントのものが多く、果実の構造

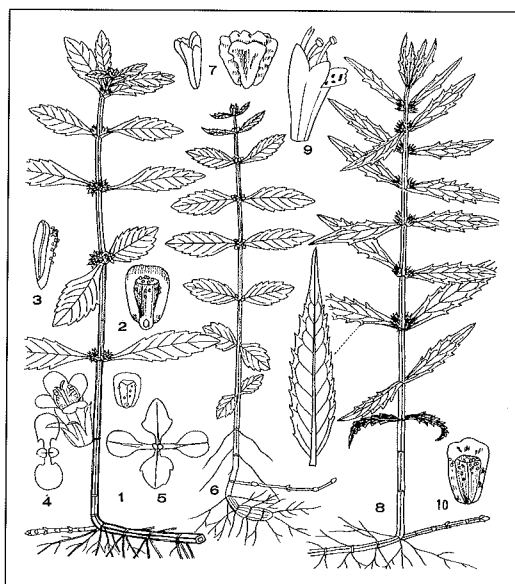
について次に図示しておいたので参考にされたい。(注)前号(42巻1号)の「－ここがポイント－似た草の見分けかた(2)」の26頁、カワヂシャ・エゾノカワヂシャの(科名)が抜けていました。両者はゴマノハグサ科ですので訂正してお詫びいたします。



▲カヤツリグサ科の果実の構造

●シロネ・多年生とエゾシロネ・多年生とヒメシロネ・多年生(シソ科)●

(*Lycopus lucidus* Turcz.) (*Lycopus uniflorus* Michx.) (*Lycopus maackianus* Makino)



▲1～5 シロネ 6～7 エゾシロネ
8～10 ヒメシロネ

シロネ、エゾシロネ、ヒメシロネは水田や湿地に生育し、いずれも茎は四角柱状／花は葉腋に蜜につき、花の形は鐘形で等しく5裂、花冠は白色、完全な雄しべ2個。果実は分離果で4分果からなる。

－見分け方－

草種	シ	ロ	ネ
部位			
茎・葉	茎は無毛、高さ80cm内外。葉は広披針形で無毛、質がやや厚く、縁に鋭い鋸歯があり、短い葉柄がある。根茎は細長く横にはう。		
花・果実	花は白色で小形、葉腋に密につける。分果の先は全縁で円切頭。		
草種	エ	ゾ	シ
部位			
茎・葉	茎には細い毛があり、高さ30cm内外。葉は菱状卵形で細毛がある。縁に鈍い鋸歯があり、短い葉柄がある。根茎は紡錘形に肥大する。(これが本種の特長)		
花・果実	花は白色で小形、葉腋に密につける。分果の先に4つの鈍歯がある。		
草種	ヒ	メ	シ
部位			
茎・葉	茎の節に白い毛があり、高さ50cm内外。葉は細長い披針形で無毛。縁に鋭い鋸歯があり、葉柄はない。根茎は細長く横にはう。		
花・果実	花は白色で小形、葉腋に密につける。分果の先は円切頭。		

●イトイヌノヒゲ・1年生とホシクサ・1年生とヒロハイヌノヒゲ・1年生(ホシクサ科)●

(*Eriocaulon decemflorum* Maxim.) (*Eriocaulon cinereum* R. Br.) (*Eriocaulon robustius* Makino)

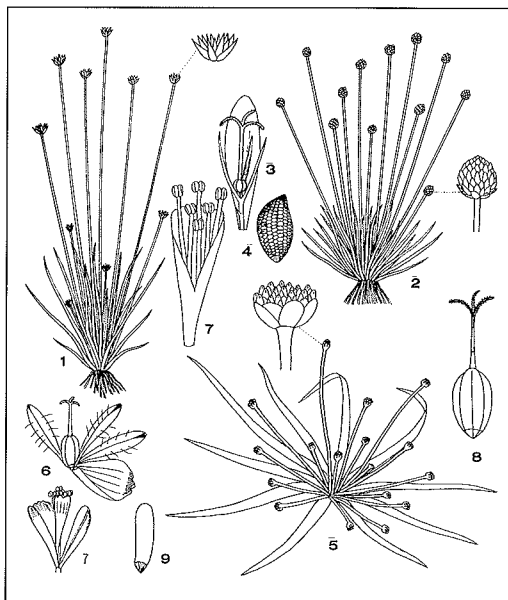
イトイヌノヒゲ、ホシクサ、ヒロハイヌノヒゲはいずれも小形の雑草だが、水田での発生も多く、全体の形が似ているので区別が難しい仲間である。見分けるポイントは花弁の形にある。

ー見分け方ー

草種 部位	イトイヌノヒゲ
葉	葉は根生し、線形、長さ2~10cm、幅1~2mm。
茎	花茎の高さ10~30cm。花茎に4~5本の縦の溝がある。
花	花序は倒円すい形で径3~5mm。花は2数からなり、花弁は2裂、白色。雄しべ2本、子房2室(他の2種は3数)。雄花はがく片も花弁も合成。雌花の花被片は離生。がく片と花弁に白い毛を密生。葯は黒色。

草種 部位	ホシクサ
葉	葉は根生し、線形、長さ2~3cm、幅1~2mm。
茎	花茎の高さ6~15cm。花茎に5本の縦溝がある。
花	花序は卵状球形、径3~4mm。花は3数からなり、雄しべは6本。雄花のがく片や花弁は筒状に合成。花は灰白色。雌花は花弁がなく、がく片は離生。葯は白色。

草種 部位	ヒロハイヌノヒゲ
葉	葉は根生し、線形、長さ15~20cm、幅5~8mmと3種の中で最も広い。
茎	花茎の高さ8~25cm。4~5本の縦溝がある。
花	花序は半球形、径4~5mm。花は3数からなり、雄しべは6本。雄花のがく片や花弁は筒状に合成。花は淡かっ色。雌花のがく片は合生して包状。花弁は離生。花弁の内面に毛がある。葯は黒色。



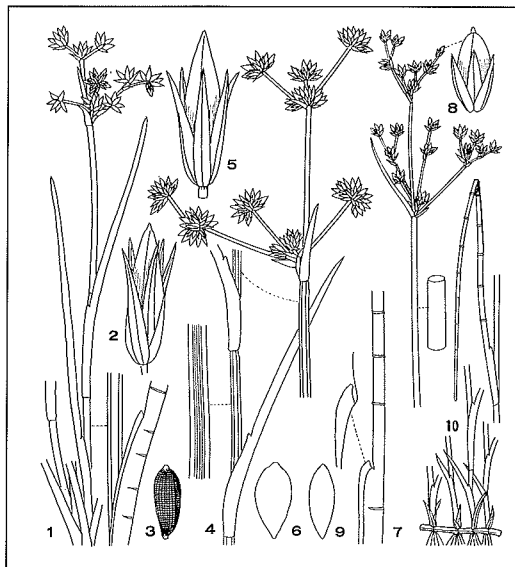
▲1 イトイヌノヒゲ 2~4. ホシクサ
5~9 ヒロハイヌノヒゲ

●コウガイゼキショウ・多年生とヒロハノコウガイゼキショウ・多年生とタチコウガイゼキショウ(イグサ科)●

(*Juncus leschenaultii* Gay) (*Juncus diastrophanthus* Buchen.) (*Juncus krameri* Franch. et Sevat.)

コウガイゼキショウ、ヒロハノコウガイゼキショウ、タチコウガイゼキショウは水田や湿地に生育するが、いずれも全体の形が似ていて見分けるのは難しい。判断のポイントは茎や雄しべにある。

ー見分け方ー



▲1~3 コウガイゼキショウ
4~6 ヒロハノコウガイゼキショウ
7~10 タチコウガイゼキショウ

草種 部位	コウガイゼキショウ
葉	葉は扁平、剣状で先がとがる。長さ10~20cm、幅3~4mm。緑色または赤味を帯びることもある。
茎	茎は高さ20~40cm。扁平で幅2~3mmの狭い翼がある。地下茎はない。
花・果実	花序はかさ状に広がる。穂の部分はかっ色。雄しべ3個、最下の包は短い。さく果は鋭頭。

草種 部位	ヒロハノコウガイゼキショウ
葉	葉は扁平、剣状で先がとがる。長さ15~25cm、幅4~5mmでコウガイゼキショウより広い。
茎	茎は高さ30cm内外。扁平で幅3~5mm、翼はコウガイゼキショウより広い。地下茎はない。
花・果実	花序はややかたまった感じで、穂の部分は緑色かかっ色。雄しべ3個。最下の包は短い。さく果は鋭頭。

草種 部位	タチコウガイゼキショウ
葉	葉は円柱状、長さ10~20cm、径1~2mm。横に明瞭な隔壁があり、横しまに見える。
茎	茎は高さ30~50cm。円柱形で径2~3mm、翼はない。地下茎が長く横走する。
花・果実	花序はあまり開出しない。穂の部分は緑色、後に赤かっ色。雄しべ6個。最下の包はときに花序より長い。さく果は鈍頭。

●マツバイ・多年生とハリイ・1年生（カヤツリグサ科）●

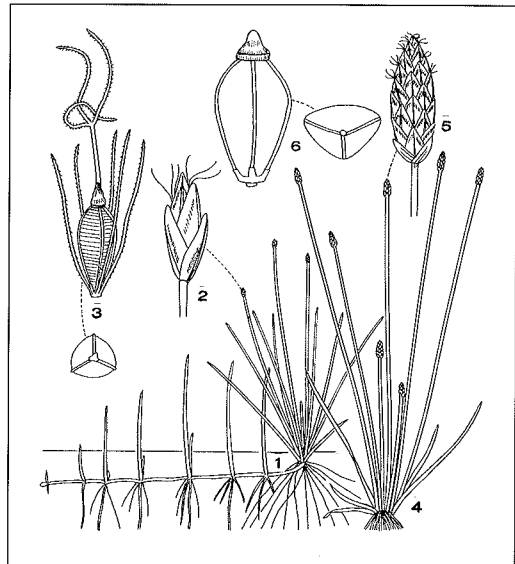
(*Eleocharis acicularis* Roem. et Schult. var. *longiseta* Svenson) (*Eleocharis congesta* D. Don)

マツバイ、ハリイは湿地や水田に生育する。水田では多く発生し、特にマツバイは水稻の生育初期に地下茎によって短期間に増殖するので強害草である。

－見分け方－

草種 部位	マ ツ バ イ
葉	地下茎の節々から針状の松の葉のような葉を束状に叢生する。長さ3～5cm。
茎	叢状の葉の間から高さ3～6cmの円柱状の花茎を数本出す。短い地下茎を多数伸ばし、節々から葉と根をだして短期間に増殖する。
花・果実	花茎の先に1個の小穂をつける。小穂は長さ2～4mm。花被片は刺針状で5～6個で宿存する。果実の基部にある刺は数本、果実の面には格子状の紋がある。

草種 部位	ハ リ イ
葉	葉は退化して葉鞘だけとなって花茎の基部に着く。
茎	花茎は円柱状で高さ8～20cm、多数叢生し大きな株になる。地下茎はない。
花・果実	花茎の先に1個の小穂をつける。小穂は長さ3～6mmでマツバイよりも大きい。花被片は刺針状で5～6個、宿存する。果実の基部にある刺は5～6本、果実の面には格子状の紋はない。



▲1～3 マツバイ 4～6 ハリイ

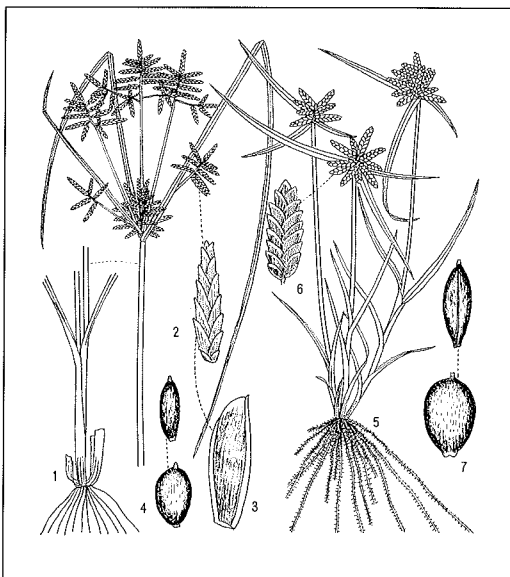
●アゼガヤツリ・1年生とカワラスガナ・1年生（カヤツリグサ科）●

(*Cyperus globosus* All.)

(*Cyperus sanguinolentus* Vahl)

アゼガヤツリ、カワラスガナは水田の畦や湿地など生育場所が同じで大きさもほぼ同じで、小穂が扁平なことから間違い易い種類である。見分けるポイントは花序にある。

－見分け方－



▲1～4 アゼガヤツリ 5～7 カワラスガナ

草種 部位	ア ゼ ガ ヤ ツ リ
葉	葉はほとんど根生し、細い線形で、幅1～2mm、先はとがる。下部は鞘となって茎を包む。
茎	茎は細長くて堅く、叢生し株になり高さ30～40cm。
花・果実	包葉は2～3枚。包葉の間から花柄をだしてその先に小穂を多数頭状につける。小穂は線形、極めて扁平で16～50の花が集まり長さ10～15mm、赤紫かった色。りん片は1.5～2mm。そう果は暗かった色、長さ0.8mm。包葉の間から花柄（長さ0～8cm）をだして先に小穂をつけることがカワラスガナとの大きな区別点。

草種 部位	カ ワ ラ ス ガ ナ
葉	葉は細長い線形で幅1～3mm、先は次第にとがり、下部は鞘となって茎を包む。
茎	茎は根もとで分けつし株になり、高さ20～35cm。
花・果実	包葉は3枚。包葉の中心に小穂を頭状に密につける。径1～2cm。小穂は長楕円形で扁平、15～30の花が集まり長さ8～10mm、暗紅色。りん片は2.5～3.5mm。そう果は暗かった色、長さ1.5mm。花柄をださず小穂が頭状に集まるので穂が丸くかたまて見える。

●クグガヤツリ・1年生とチャガヤツリ・1年生 (カヤツリグサ科) ●

(Cyperus compressus L.)

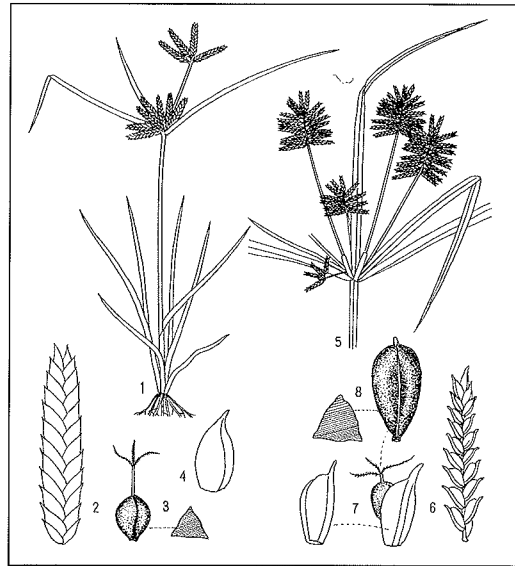
(Cyperus amuricus Maxim.)

クグガヤツリ、チャガヤツリは畑地や水田の畦、路傍などに生育し、同じ環境で見られる種類で大きさもほぼ同じである。判定のポイントは花序にある。

ー見分け方ー

草種	クグガヤツリ
部位	
葉	葉は細い線形、基部の方は赤味をおびる。
茎	根もとから数本花茎が叢生し高さ10～20cmと小形、3稜柱状で質は堅い。
花・果実	花茎の先端に線形の包葉がつき、特に3枚が長い。包葉の中心に多くの小穂がかたまってつき、またそこから2～3本の花柄を伸ばして先に小穂をつける。小穂はやや扁平で長楕円形、15～35の花が集まり、長さ10～25mm、淡黄かっ色。りん片は鋭頭で先はそり返る、長さ3～3.5mm。そう果は黒色、長さ1.2mm、3稜形で柱頭は3個。

草種	チャガヤツリ
部位	
葉	葉は細い線形で軟らかい。
茎	花茎は数本でて、高さ10～60cm。3稜形。
花・果実	花茎の先端に数枚の長い包葉をつけ、そこから長短異なる花柄を出し、先に小穂が蜜に集まって広卵形の花穂となる。小穂は線形でやや扁平、8～20の花が集まり長さ7～12mm、赤かっ色。りん片は円頭で先はそり返るがクグガヤツリ程明瞭でない、長さ1.5mm。そう果はかっ色長さ1.5mm、3稜形で柱頭は3個。



▲ 1～4 クグガヤツリ 5～8 チャガヤツリ

●タマガヤツリ・1年生とヒメクグ・多年生とヒンジガヤツリ・1年生(カヤツリグサ科)●

(Cyperus difformis L.) (Cyperus brevifolius Hassk. var. Leiolepis T. koyama) (Lipocarpa microcephala Kunth)

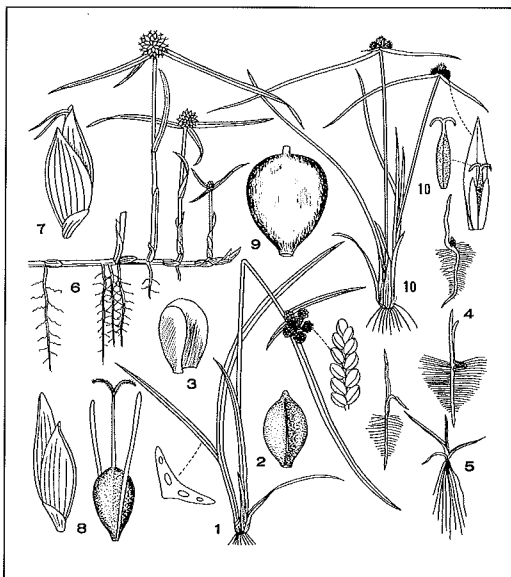
タマガヤツリ、ヒメクグ、ヒンジガヤツリはいずれも水田や湿地、用水路などに生育し、特にタマガヤツリは水田の強害草である。3種はいずれも花穂が球状で間違い易い仲間である。

ー見分け方ー

草種	タマガヤツリ
部位	
茎・葉	葉は線形、先は次第にとがり、中央脈が背面で高く隆起し、葉の断面は3稜形、下部は鞘となって茎を包む。地下茎はない。茎は軟らかく3稜形で高さ25～60cm。
花・果実	茎の先に2～3枚の包葉をつけ、その中心から数本の短い花柄をだし、その先に径5～15mmの球状の花穂をつける。小穂は線形、多数花で10～20の花が集まる、長さ3～10mm、暗緑～赤かっ色。1花のりん片は1個。そう果は3稜形、0.5mm、柱頭3個。

草種	ヒメクグ
部位	
茎・葉	葉は軟らかく狭線形で、先は次第にとがり、下部は淡紫色をおびて鞘となり茎を包む。地下茎があり、地下茎の節々から茎が直立して高さ10～20cm。茎は3稜形で単生する。
花・果実	茎の先に3枚の包葉をつけ、その中心に小穂が球状に集まった花穂が1個つく。花穂は径7～10mm。小穂は長楕円形、長さ3～4mm、緑色。1小穂1花でりん片は3～4個。そう果は扁平、長さ2mm、柱頭2個。ヒメクグは茎は1本、花穂が1個が特長。

草種	ヒンジガヤツリ
部位	
茎・葉	葉は根元から叢生し、細い線形で軟らかい。茎は葉の間から多く出し高さ10～30cm。地下茎はない。
花・果実	茎の先に包葉を2枚つけ、その中心に小穂が球状に集まった花穂が3個品字状に並んでつく。そのためにヒンジ(品字)ガヤツリという。1個の花穂の径8mm。1小穂1花でりん片は3個。小穂は長さ3～5mm、淡緑色。そう果は扁平で長さ1mm、柱頭2個。花穂が3個並んでつくのが特長。

▲ 1～5 タマガヤツリ 6～9 ヒメクグ
10 ヒンジガヤツリ

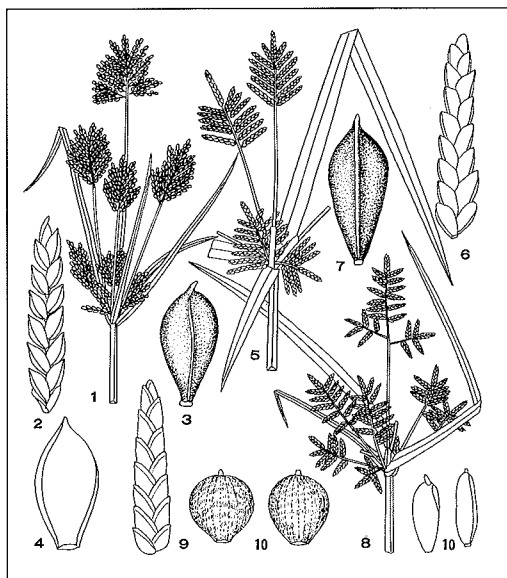
●カヤツリグサ・1年生とウシクグ・1年生とミズガヤツリ・多年生（カヤツリグサ科）●

(*Cyperus microiria* Steud.) (*Cyperus orthostachyus* Franch. et Savat.) (*Cyperus serotinus* Rottb.)

カヤツリグサ、ウシクグ、ミズガヤツリの3種はいずれも水田や湿地に生育し、特にミズガヤツリは水田に多く強害草の一つになっている。3種は花穂がいずれも大きくよく目立つ仲間である。

ー見分け方ー

草種	カヤツリグサ
部位	
茎・葉	葉は根生、細長い線形で先は次第にとがり軟らかい。茎は3稜形、根元で分枝し数本で株になる。高さ30～40cm。茎・葉に香気がある。地下茎はない。
花・果実	茎の先に包葉を3～5枚だし、その中心から4～9本(長さ5～12cm)の花柄をだし、1本の花柄に数個の花穂をつける。小穂は線形、10～20の花が集まり長さ7～12mm、りん片は黄かっ色、円頭、突頭、1.5mm。そう果は3稜形、暗褐色、1mm。柱頭3個。
草種	ウシクグ
部位	
茎・葉	葉は根生し広線形、先は次第にとがり、縁はざらつき濃緑色。茎は3稜形、叢生し高さ30～60cm。地下茎はない。
花・果実	茎の先に包葉を3～4枚だし、その中心から4～8本(長さ5～20cm)の花柄をだす。この花柄はカヤツリグサやミズガヤツリの花柄より著しく長く、広く散開するのが特長。その花柄の先に楕円形の花穂をつける。小穂は線形で扁平、約15の花が集まり長さ5～10mm。りん片は赤紫褐色、円頭、1.2mm。そう果は3稜形、暗褐色、1mm。柱頭3個。
草種	ミズガヤツリ
部位	
茎・葉	葉は広い線形、長さ50～60cm、幅5～8mm、先はとがり下部は鞘状になり茎を包む。茎は太い3稜形で叢生し、高さ50～90cm。地下茎を四方に伸ばし、節から葉と茎を出して増殖する。
花・果実	茎の先に包葉を3～4枚つけ、その中心から3～4本(長さ2～5cm)の花柄をだし、更にその先が2～3回分枝して先に花穂をつける。小穂は線形約20の花が2列につき長さ10～20mm。りん片は赤褐色、鈍頭、2～2.5mm。そう果は両凸形でほぼ円形。褐色、1～1.5mm。柱頭は2個。秋に地下茎の先に多数の塊茎を形成する。



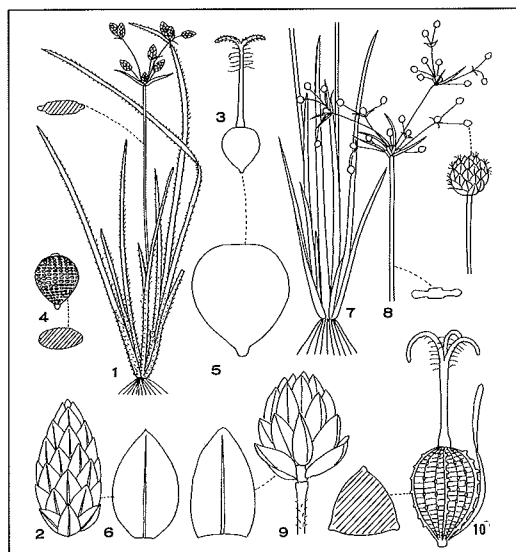
▲ 1～4 カヤツリグサ 5～7 ウシクグ
8～10 ミズガヤツリ

●テンツキ・1年生とヒデリコ・1年生（カヤツリグサ科）●

(*Fimbristylis dichotoma* Vahl) (*Fimbristylis miliacea* Vahl)

テンツキ、ヒデリコはどちらも水田の畦などに多く生育し、いずれも大きな株になって花穂を多数出す点が似ていて判別に迷う仲間である。見分け方のポイントは茎・葉と花序にある。

ー見分け方ー



▲ 1～6 テンツキ 7～10 ヒデリコ

草種	テンツキ
部位	
葉	葉は多くは根生、線形でやや堅く、下部は葉鞘となり、葉鞘に細かい毛がある。
茎	茎は丸みのある三角形、高さ20～50cm。
花・果実	茎先に数枚の包葉をだし、そこから散形花序をだす。花序は複生し各々の枝先に1個の小穂をつける。小穂は卵形長さ5～8mm、茶褐色、りん片は鋭頭。そう果は両凸状広卵形、淡黄色～白色。1～1.5mm。柱頭は2個。果実の表面に格子状の模様がある。
草種	ヒデリコ
部位	
葉	葉はやや堅く扇状に2列に並び、幅2～5mm、長さ15～30cm、先は次第にとがり、下部は広がって鞘となって互いに抱き合う。これが特長。
茎	茎は扁平、高さ20～50cm。
花・果実	茎の先に糸状の包葉を数枚つけ、そこから散形花序をだす。花序は大形の散形で再三分枝し、枝先に多数の小穂をつける。小穂は球形、径2.5～4mm、赤褐色。りん片は鈍頭。そう果は鈍3稜状倒卵形、白色、長さ0.5mm、柱頭3個。果実の表面に網目状の模様がある。

●ヒメガヤツリ(ミズハナビ)・1年生とヒナガヤツリ・1年生(カヤツリグサ科)●

(Cyperus tenuispica Steud.)

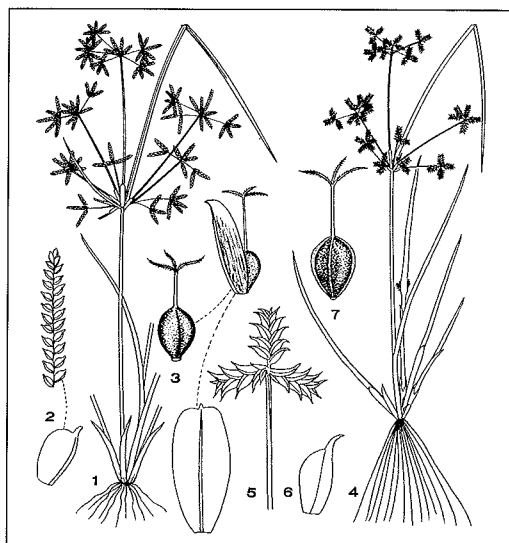
(Cyperus flaccidus R. Br.)

ヒメガヤツリ、ヒナガヤツリはともに水田や湿地などに生育する。特にヒナガヤツリは水田に多く発生し、最近問題になっている種類である。

－見分け方－

草種 部位	ヒメガヤツリ (ミズハナビ)
葉	葉は根生し鞘状、茎よりは短い。
茎	茎は細長く、3稜柱状で緑色、高さ15～30cm。
花・果実	茎の先に長い包葉を2～3枚だし、その中心から長い花柄を5～10本だし、各花柄の先は更に1～2回傘状に分枝した小枝をだして多数の小穂をつける。小穂は線状長楕円形で長さ3～8mm、りん片は鈍頭、紅褐色、1mm、先は少しそり返る。そう果は白色、1～1.2mm。小穂には15～20の花が2列につく。

草種 部位	ヒナガヤツリ
葉	葉は根生し細長い線形で先が次第にとがり、長短不同で長いものは茎より長い。質は軟らかく淡緑色。
茎	茎は葉の間から密に叢生し、質は軟弱で淡緑色、高さ5～15cm。根は紫赤色のひげ根。
花・果実	茎の先に包葉を2～3枚だし、その中心から長い花柄を数本だし、各花柄の先は更に短い小枝をだして小穂数個を頭状につける。小穂は長楕円形5～12mm。りん片は円～切頭、淡緑色、芒を除き1mm、芒はそり返る。そう果は淡黄色、0.3mm。小穂には20前後の花が2列につく。



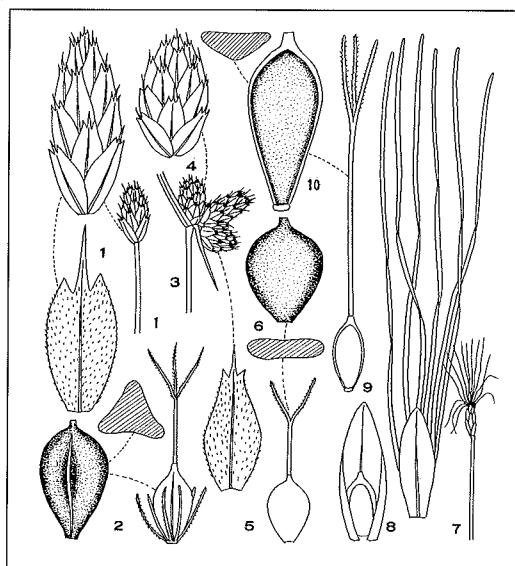
▲1～3 ヒメガヤツリ 4～7 ヒナガヤツリ

●ウキヤガラ・多年生とコウキヤガラ・多年生とヒメワタスゲ・多年生(カヤツリグサ科)●

(Scirpus yagara Ohwi) (Scirpus planiculmis Fr. Schm.) (Scirpus hudsonianus Fernald)

ウキヤガラ、コウキヤガラ、ヒメワタスゲの3種は沼沢、塩湿地、湿原などに生育し、こうした場所では3種を見ることができ。見分け方のポイントは花穂にある。

－見分け方－

▲1～2 ウキヤガラ 3～6 コウキヤガラ
7～10 ヒメワタスゲ

草種 部位	ウキヤガラ
茎・葉	葉は線形、質は堅く、茎の下方について基部は筒状になって茎を包む。茎は3稜形で単生し、高さ1～1.5mと大型。茎の基部は膨大して堅い塊茎となる。地下茎で繁殖。沼沢に多く生育する。
花・果実	花茎の先端に線形包葉を2～4枚つけ、その中心から長短不同の花柄を3～8本だし、先に長楕円形の小穂をつける。この花柄が長いのが特長でコウキヤガラはごく短いか無柄。花披片は6個、刺針状。柱頭は3個。そう果は3稜のある楕円形、長さ4mm。

草種 部位	コウキヤガラ
茎・葉	葉は線形、質はやや軟らかく、茎の下方に少数つく。幅2～5mm。茎は3稜形で単生し、高さ20～100cm。茎の基部は膨大して径1～3cmの塊茎となる。地下茎で繁殖。塩湿地に多く生育する。
花・果実	花茎の先端に1～2の包葉をつけ、その中心に柄のない小穂を頭状につけ、ときに短い柄の先に小穂をつける。小穂は卵状楕円形。刺針はなく、柱頭は2個。そう果は鈍い稜のある広倒卵形、長さ3mm。

草種 部位	ヒメワタスゲ
茎・葉	葉は密生しやや3稜形。葉は鞘状葉で茎の基部につき、円筒形で茎を包む。葉身はない。茎の高さ10～30cm。根茎は短く横にはう。地下茎はない。本州北部～北海道の寒地の湿地に生育する。
花・果実	茎の頂に1個の小穂をつける。小穂は卵状披針形。花披片は6個、白色、刺はなく花後に白色の花披片が長く伸びて長さ15～20mmになる。柱頭3個。そう果は長倒卵形長さ2mm。

●似た草の見分けかた (3) の口絵 (本文42～47頁)



▲シロネ・葉柄がある



▲エソシロネ・葉柄がある



▲ヒメシロネ・葉柄がない



▲イトイヌノヒゲ・花序は倒円すい形



▲ホシクサ・花序は卵状球形



▲ヒロハイヌノヒゲ・花序は半球形



▲コウガイゼキショウ・茎は扁平



▲タチコウガイゼキショウ・茎は円柱状



▲マツバイ・地下茎で繁殖する



▲ハリイ・地下茎はない



▲アゼガヤツリ・花柄の先に小穂をつける



▲カワラスガナ・小穂を頭状につける



▲クグガヤツリ・花柄は少ない



▲チャガヤツリ・長い花柄を多くだす



▲ヒメクグ・茎先に球状の花穂を1個つける



▲タマガヤツリ・花穂は球状



▲ヒンジガヤツリ・3個の花穂を品字形につける



▲カヤツリグサ・1本の花柄に数個の花穂をつける



▲ウシクグ・花柄が長い



▲ミズガヤツリ・花柄の先が2~3回分枝して花穂がつく



▲テンツキ・茎は丸みのある三角形



▲ヒデリコ・茎は扁平



▲ヒメガヤツリ (ミズハナビ)・花柄の先が傘状に分枝して花穂がつく



▲ヒナガヤツリ・小穂は頭状につく



▲ウキヤガラ・花柄の先に花穂がつく



▲コウキヤガラ・花柄は短いが無柄



▲ヒメワタスゲ・茎先に1個の花穂がつく